

2 佐藤剛蔵と近代朝鮮医学教育

寺 畑 喜 朔

本年は半生を超えて朝鮮医学史の開拓と多大な研究業績を遺された故三木 栄先生（昭二、九大卒業）の生誕百年にあたる。先生は第五七回本会総会（昭三〇）において「朝鮮医学史」の特別講演をされた。その際の要旨は二十世紀初頭で棹尾となっている。爾後の朝鮮医学史については、誰も手を染めておらず、先生の業績を継承せず今日に至っている。わが国では日本統治下時代の朝鮮医学史は未だ体系化されていない。

ところで、明治四十年から敗戦までの三十八年間在鮮し、直接朝鮮の医育と医育事業に携わっていた故佐藤剛蔵先生（以下、佐藤）の存在を知り、佐藤著「朝鮮医学史」（昭和三十一年、佐藤先生喜寿記念会刊行）を入手した。ついでには三木 栄先生の生誕百年を記念し、佐藤の功績を称え近代朝鮮医学史の梗概を述べる。

佐藤の略歴

明治十三年新潟県長岡市生、同三十九年京都帝国大学医科大學卒業、同四十年財団法人同仁会平壤医院長兼医学校長、同四三年朝鮮總督府医院教官兼医育課長、大正三（五年）京都帝大荒木寅三郎（医化学）に師事する、同五年朝鮮總督府京城医学専門学校教授、同九（十年）欧米出張（医学博士）、同十五年京城帝国大学教授兼京城医学専門学校教授、昭和二年京城医学専門学校校長兼京城帝国大學教授、同十二年勲二等瑞宝章、同十五年従三位、同二十年十二月帰国、以後の去就は不詳（昭和三五年頃、京都在住）

朝鮮に於ける医育・医療機関の略年譜

明治十七年朝鮮王室病院（済衆院）設立、監督は米国北長老会のドクトル・アレン、同三二年京城医学校、廣濟院設立、同三五年東京に於いて同仁会設立、同三七年セブランス病院創設、同三八年大韓赤十字病院設立、同三十九年平壤同仁医院創設、同四十年大韓医院官制公布（衛生、治療、教育の三部門からなる）、大邱同仁医院設置、同四一年龍山同仁医院設置、同四二年私立世富蘭偲

病院医学学校設立同四三年日韓併合、朝鮮總督府医院（京城医学学校、廣濟院、大韓赤十字病院を統合）開院、朝鮮總督府医院医学講習所開設、朝鮮各道に慈恵医院設置、大正五年京城医学専門学校設立（朝鮮總督府医院医学講習所）、大正十五年京城帝国大学医学部創設、昭和四年道立平壤、大邱医学講習所設置、同八年道立平壤、大邱医学専門学校に昇格、同十三年（財）京城女子医学専門学校設立、同十九年光州、威興に医学専門学校設置、同二十年敗戦

敗戦時医育機関と医師養成

日韓併合以来、敗戦に到るまで朝鮮の医育機関で養成された医師の概数は、京城帝国大学医学部（一〇〇〇名）、京城医学専門学校（二三〇〇名）、セブランス医学専門学校（一〇〇〇名）、京城女子医学専門学校（二〇〇〇名）、平壤、大邱医学専門学校（各一〇〇〇名）総計六五〇〇名に達し、うち朝鮮人医師は三二四〇名、日本人医師は三一六〇名である。なお、医学教育担当者の大半は日本本土の各区育機関から選抜推薦、渡鮮しており、有名な医学者は決して少なくはなく、彼ら個別の業績は別

に評価されねばならない。

近代朝鮮医育史については、すでに奇昌徳先生の韓国国内保存史料にもとづく「韓国近代医学教育史」が公刊されているが、奇先生は先年逝去され、その後の医史研究の発展が危惧される。日本に於ける朝鮮医育史料は乏しく、「朝鮮医学会雑誌」、朝鮮總督府刊行の年報関係誌や「満鮮之医界」、「鮮満医事時報」、「鮮満の医事」などの諸誌から丹念に検索抽出せざるをえない。

演者は日本で保存の朝鮮医学（医学教育関係を中心）に関連する医史料を順次収集し、韓国医史研究者と対応しつつ、近代朝鮮医育史の体系を整えたいと考えている。同学の志をもつ人の奮起を促すところである。

（金沢医科大学）